

遠隔教育と高速ネットワーク

学習環境と教育環境

神沼靖子 (前橋工科大学)

ネットワーク環境の現状

- ▲ 学習者 (個人学習) の環境
まだ恩恵を受けられる状況にない
- ▲ 教育の現場
充分ではない (一部で整備されている)

期待されるインターネット インフラ整備の動向 (1)

▲ IT戦略本部による基本戦略

- 超高速ネットワークインフラ整備及び競争政策
- 電子商取引ルールと新たな環境整備
- 電子政府の実現
- 人材育成の強化

▲ 高度情報通信ネットワーク社会形成基本 法の成立 (2001.1.6)

- 高度情報通信ネットワークの形成に関する施策を
迅速かつ重点的に推進することを目的としている

期待されるインターネット インフラ整備の動向 (2)

▲ e-japan戦略 (2001.1)

- 競争および市場原理の下、5年以内に超高速アクセス (30~100Mbps) が可能なインターネット網の整備を促進することにより
 - 3000万世帯が高速インターネットアクセス可能
 - 1000万世帯が超高速インターネットアクセス可能
- e-japan 2002プログラム (2001.6)

▲ 以上は、ここでの話題である高速の内容と 少し違う (数Gbps~ 数10Gbps)

教育・学習の視点で必要なこと

- ▲ 全国どこにいても、何時でも、必要な情報を、それを望む学習者が享受できること
- ▲ 教育の機会均等

高速ネットワークを利用したい！

- ▲ 遠隔学習、単位互換、大学のグループ化
 - 独立法人化
- ▲ 通学できない学習者の支援
 - 特殊学級、e-school
- ▲ 多様な教材の配信
 - マルチメディア教材、映像教材
- ▲ 双方向的な学習環境

教材制作における問題

- ▲ 教材の質 :求められる多様性
- ▲ 教材の大きさ :テキストと素材と

- ▲ マルチメディア教材作成者の負担
 - 時間、教材作成環境の整備、オーサウェア
- ▲ 複合教材における著作権への対応
 - 映像教材など

教材の共用

- ▲ 教材の蓄積
 - DBの分散と統合 :大規模サーバ
 - 教材へのアクセス権 :料金
 - 教材の更新と世代管理
 - 教材作成者と素材提供者と教材配信者
 - 著作権、意匠権、役割分担